
本と少年と管理人

菜麻華門

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本と少年と管理人

【Nコード】

N9603L

【作者名】

菜麻華門

【あらすじ】

もうすぐ30の無職で狭いアパートに住んでいる男。

あだ名は金八。

金に困っていた彼に親友から仕事の依頼。

それは本を管理するだけで大金が手に入る仕事。

最初は楽で魅力的な仕事だったが、仕事に疑問を持ち始めると
驚愕の事実が・・・？

依頼

また暑い夏がやってきた。

日本の夏はじめじめとして暑い。

その暑さが俺の気力を溶かしているのだろう。

俺はコンビニでもらった団扇を仰ぎながら汗で湿った布団の上で呟いた。

「なんか仕事ねえかな・・・」

俺の名前は竹田哲也。
ただでっや

漢字は違うが、あの有名人と一緒に名前だ。

そんなわけで小学校からのあだ名も『金八』。

とは言っても教師ではなく無職だし、別に髪が長いわけでもない。
俺は格安でエアコンも扇風機もない狭いアパートの一室でうな垂れている金八だ。

もうすぐ30になるのにまともな職もなく、彼女もいない。

いや、彼女はいた。

1年前まで。

無収入な男とは別れるそうだ。
そりゃあそうだ。

彼女は・・・元彼女は今、年収800万円の男と付き合っているらしい。
別に恨むつもりはない。

でもなんだろうなこの悲壮感。

ああ暑さが俺の過去を蒸し返してくる。

涼しい所にでも行くか。
ついでに腹も減った。

俺は気だるい体を起こして机の上の財布を取った。

・・・札は無い。

財布をひっくり返すと十円が5枚と五円が1枚、そして一円が3枚。
つまり俺の所持金は58円。

58円。

そうだ、昨日滞納してて止められてた携帯電話の代金を払ったんだった。

俺は頭を掻き耄り呻いて布団に倒れた。

その直後、金をつぎ込んだ携帯が鳴り出した。

「・・・もしもし？」

「おっ、生きてたか金八」

この声は小学校からの親友、中村だ。

「急がしかったのか？何度も電話しても繋がらないから」

「ああ、仕事で世界各国飛び回ってたんだよ」

「ははっ、嘘つくなんて。どうせ電話止められてただけだろ」

「昨日払ってこの通り。そのおかげで俺は餓死寸前ってわけだ。いや、干からびて死ぬかな」

「つまり金が無いんだろ。代金払っというて良かったな、お前に朗報だぜ」

俺は体を起こして台所に向かった。

「1ヵ月で大金が手に入る楽な仕事を見つけたぜ」

「おいっ、それってどうせやばい仕事だろ。そんなのはごめんだぞ」

手垢が少し残ったコップを手にとって俺は言った。

「1回そういう系の仕事やって酷い目にあったんだからな・・・くそっ、水が止められてる」

俺は何回も空回りする蛇口を叩いた。

「お前その生活のままでいいのか？水道も止められて電話代金のせいで食べるのも・・・」

「ああ、分かった、分かった。内容だけでも聞くよ」

俺はコップを片手に部屋を出た。

「仕事内容は簡単。ただ管理するだけだ」

「管理って・・・何の？」

アパートの外にある蛇口からホースを外して俺は言った。

「人間」

「人間！？おいつ、それって人身売買とかじゃ・・・」

「はははっ冗談だよ冗談。管理するのは人間じゃなくて本だ」

「なんだよ、俺はてっきり・・・」

「悪いな。こういう反応するか言ってみたくてよ」

俺は息をつきながらコップに水を注いだ。

「それで本の管理するだけで良いのか？」

「そう、ただ管理するだけで良い。それで最初の前払いとして50万円支払うって」

「ごっ、50万!？」

俺は口に含んだ水を盛大に吐き出した。

「なんでっ・・・げほっ・・・そんっ・・・ごほっごほっ・・・そんな50万も？」

「実際にやってみた方が速いって。嫌だったら止めればいいさ」

「そりゃあそうだけだよ・・・」

「とりあえず場所とか時間は後でメールで送る。じゃあな」

「あっ、おいっ中村・・・」

電話は切れてしまった。

本の管理だけで最初の前払いは50万？

どう考えたって危ない事に関わっているとしか思えない。

でも今のこの状況では魅力的な仕事に思えた。

一生やるってわけじゃない。

1ヵ月だけだ。

俺は蛇口をひねって水を止めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9603/>

本と少年と管理人

2010年10月10日20時29分発行